

Level 2 Patterned Stories は、英文を自分の力で読む練習を多くし、また Level 2 の様々なストーリーに頻繁に使われる vocabulary に見慣れさせるように製作されました。ご存じのように ORT は、イギリスの子どもの English(国語)の教材ですが、母国語が英語の子どもが全員すらすらと読めるようになる訳ではありません。なかなか文字と音が結びつかない、いわゆる slow learners もいます。その子ども達のために、基本文を繰り返し、新出単語はイラストを見て推測できるように作られた絵本は、EFL (English as a Foreign Language)として英語を学習している日本の子ども達の学習にぴったりです。EFL の子ども達は、英語学習の時間以外で英語に接する機会が皆無、または殆ど無いので、英語を生きた言語として体験することがありません。同じレベルでの反復練習が含まれた絵本をたくさん読んで聞かせ、自分でも「読める」という満足感をあげあわせましょう。

私はレッスンで多くの絵本を使います。その際、3つの段階を考えます。

- | |
|---|
| 1) Pre-reading
2) Reading together
3) Follow-up |
|---|

- 1) では絵本に含まれる単語、トピック、構文をあらかじめ導入します。そうすることで、英語の絵本を読んでもらう子ども達の負担を少なくします。もちろん、この段階をレッスンで扱わなくても、子どもがすーっと理解してしまう優れた絵本はたくさんあります。また、コースブックで Family を学習したら、そこで学習した単語が幾つか含まれている絵本を読んであげることによって、子どもは自然に 2) の Reading together に入っていくことができます。
- 2) を単に Reading としないで Reading together としているのは、美しい朗読を聞かせるのではなく、子ども達が参加する楽しい読みを実践するということです。絵本を楽しんでいる子どもは、Repeat after me.と言わなくても、先生(またはお母さん)と一緒に英語を声に出して読みたくなるものです。

3) の Follow-up では、絵本を何度も読んで吸収した英語を、別の場面(situation) や文脈(context)で使うアクティビティをします。こうすることで、子ども達は英語を自分の言葉として使うようになります。

Level 2 Patterned Stories は、1 冊ごとの英語がコントロールされ、同じ構文が繰り返され、新出単語は必ずイラストに描き込まれていますから、1) の段階を飛ばして、いつ読んであげてもかまいません。1 冊ごとの具体的な活用法を参考に、子ども達と英語を楽しんでください。

解 説

外山節子

Monkey Tricks

- 1) 表紙を見せ、Kipper たちがどこにいるのか考えます。子ども達は zoo という英語を知っているでしょうか？Kipper は誰と一緒に zoo に来ているのでしょうか。Kipper が手に持っているのは何でしょう？どうしてウィンクしているのでしょうか？タイトルを読み、意味を考えさせてから、tricks はいたずらのことだよ、と教えます。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合います。Biff, Chip, Kipper, Wilma, Wilf, Wilma's Dad の確認をします。動物園に行ったことがあるか、動物園にはどんな動物がいるか話し合い、2 ページで何が見えるか予測します。2-3 ページを見て絵について話し合ってから英文を読みます。読んだあと、Point to the word Giraffes.のように指示をして、単語を指させます。同様にして 15 ページまで読み、16 ページに何が起きるか予測してからページをめくります。
- 3) この絵本は went, looked, were の練習をするように作られています。見開きごとに、They looked at the (動物の複数). The (動物の複数) were funny.というパターンが繰り返されますから、イラストを見て動物の名前を言えれば、すぐに絵本全体を読めるようになります。声を出して読めるようになったら、ページごとに先生が言う単語を指させるなど、個々の単語の確認をしましょう。また、子どもが絵本を持って、絵を指さしながら、みんなの前で絵本を読む、show and tell のようなアクティビティをすると良いでしょう。
- 4) ボードに
They looked at the . The were ().
と書きます。空いたところに、子どもが好きな動物の絵を描きます。必ず 2 匹以上描かせます。子どもがライオンを描いたら、ライオンはどんな様子だったか想像し、英語を教え、先生がその単語をカッコに描き入れます。They looked at the lions. They were bored.のように、variation を作ります。画用紙に英語を書き、絵を描いたものをまとめてオリジナルの絵本を作っても良いでしょう。

Hey Presto!

- 1) 表紙を見せ、誰が何をしているか話し合います。Wilma's Dad がポスターを見えています。マジックショウのポスターだということが分かるでしょうか？タイトル

を読みます。Hey presto! はマジシャンのかけ声で、「ほら!」「それ!」という元はイタリア語の表現です。

- 2) 1 ページを見せ、Wilf, Wilma, Mum and Dad を確認します。夜のお出かけであることが絵から分かります。英文を指さし、読めるかな?と聞きます。Monkey Tricks の 1 ページの英文と同じパターンです。1 つでも読めたら誉めます。英文を指さしてどこを読んでいるか分かるようにして読んで聞かせます。次はどんな場面か予測してからページをめくります。2 ページの conjuror という単語は magician と同じ意味で、絵を見ると理解できます。4 ページ以降は、見開きごとに、She took (). She put (). というパターンが続きます。入れ替えの単語は、絵から理解できますから、絵について話し合ってから英文を読むことで、子どもの読みを促進します。15 ページまで読み進んだら、最終ページでどのようなマジックが見せられるか予測してからページをめくります。
- 3) この絵本は took, put を練習するように作られています。様々な単語が使われていますが、どれも絵から推測できる context words ですから、子どもが読む負担は大きくはありません。
- 4) Sheena, Mum, Dad, Wilma の役を子ども達にさせます。マジックの小物を用意しておき、先生が絵本を読むのに合わせて act out しましょう。

It's the Weather

- 1) 表紙を見せ、誰が何をしているか話し合います。学校の入り口です。先生(Mrs May)や用務員のおじさん(janitor/custodian)が出勤するところですが、風が強くてみんな困っていますね。タイトルを読みます。weather は天気という意味だと教えます。絵本を読んでタイトルの意味を考えよう、と言います。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合います。先生の様子から、子ども達が騒がしいことが分かります。英文を読みます。noisy を大きな声で読んで感じを出します。次は子ども達がどんな様子か予測してからページをめくります。同様に読み進み、6-7 ページを読んでから、先生の名前には Mrs をつけることを教えます。Mrs May がどんな気持ちか話し合います。12-13 ページ、16 ページでも Mrs May がどんな気持ちか話し合います。英文は The Children were . のパターンの繰り返しですから、入れ替えの単語以外はすぐに読めるようになります。絵について話し合うとき、窓の外の用務員のおじさんの赤い帽子に注目しましょう。
- 3) この絵本は were と said を練習するように作られています。気持ちや様子を表す形容詞は絵から推測できるように作られています。noisy, silly, messy, untidy,

cross, grumpy, unhappy, good を、子ども達と相談して、表情、体、声、音で表現してみましょう。

- 4) 希望する子ども 1 人に Mrs May の役を、もう 1 人に用務員のおじさんの役を、クラス全員が子どもの役をあて、先生が絵本を読むのに合わせて act out します。赤い帽子を用意しておき、教室の本棚を学校の塀に見立てると楽しいパフォーマンスになります。

Naughty Children

- 1) 表紙を見せ、Kipper の家に誰が来たのか話し合います。タイトルを読み naughty は「わんぱくな」という意味であることを教えます。この絵本で何が起きるか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合います。この男性はアジア人のイメージでしょうか？子どもを預けにきたようです。2人の子どもは Kipper たちと仲良く遊べるでしょうか？予測してからページをめくります。2-3 ページでは、女の子を指さして climbed を、男の子を指さして jumped を読みます。4-5 ページで何が起きるか予測してからページをめくります。8-9 ページを読んだら、Biff の good idea はどんなことか話し合います。
- 3) この絵本は climbed, jumped を練習するように作られています。They climbed on (). They jumped on (). が繰り返され、入れ替えの単語は絵を見て推測できるように作られています。必ず、絵について話し合い、英語で言えるものを言わせてから英文を読むようにしまそう。英文を読むときは、単語を指さしてどこを読んでいるか分かるようにして読みます。入れ替えの単語の前でポーズして、子どもが英語を言うようにし向けると良いでしょう。
- 4) True/False ゲームをします。The children jumped on the bed. のように絵本に描かれていることを言ったら、True と答えます。The children jumped on the curtains. のように描かれていないことを言ったら False と答えます。(このゲームに慣れていない子ども達ならば、True という代わりに両手で○を作る、False という代わりに両手で×を作るようにします。)このゲームは最初はリスニングでしますが、慣れてきたら、ボードに英文を書いて、True/False ゲームをリーディングでします。片面に True、裏に False と書いたカードを 1 人に 1 枚渡し、カードを上げながら True/False! と大きな声で答えさせると良いでしょう。

A Sinking Feeling

- 1) 表紙を見せ、誰がどこに行くところか話し合います。左から Biff, Mum, Kipper, Wilf, Chip, Wilma です。
- 2) 1 ページを見せ、もう一度人物の名前を確認します。Kipper は腕に浮き(water wings)をはめていますね。英文を指さし、読める単語があるか聞きます。1 つでも読めたら誉めます。英文を読みます。プールで何が起きるか想像します。ページをめくり、2-3 ページの絵を指さしながら英文を読みます。次に誰が登るか予測します。4-5 ページを見せ、絵について話し合います。Wilma が「おいで」と言い、Wilf が登っていることが分かってから英文を読みます。同様にして、15 ページまで読み、16 ページで何が起きるか予測してからページをめくります。
- 3) この絵本は“Get on.”, said, climbed, couldn’t を練習するように作られています。4-5 ページから 8-9 ページまでは同じパターンで人物の名前を入れ替えていますから、必ず絵を見て誰が「おいで」と言い、誰が登っているか予測・理解してから英文を読むようにすると、子どもと一緒に声を出して読むようになります。couldn’t は、難易度の高い単語ですが、絵を見て意味がわかる context word です。
- 4) Kipper たちの役を割り当てて act out します。大きいクッションがあれば duck として理想的です。先生が絵本を読み、“Get on.”のセリフを子ども達が言います。Kipper の役の子どもには“I can’t get on.”とすることを教えます。

Creepy-crawly!

- 1) 表紙を見せ、誰が何をしているところか話し合います。Wilma が持っている箱に The Joke Shop と書いてあります。Monkey Tricks の表紙を見せ、Kipper が持っている袋にも同じことが書いてあることを見せます。Kipper の袋には何が入っていたでしょうか？どうやら、The Joke Shop の袋には「いたずら」の材料が入っているようだ、と子ども達が理解したら、タイトルを読みます。気味が悪い感じを込めて読みます。この絵本で何が起きるのか想像します。
- 2) 1 ページを見せ、絵について話し合います。読める単語はあるかな、と聞き、1 つでも読めたら誉めます。2 ページで何が起きるか想像してからページをめくり、2-3 ページの絵について話し合ってから英文を読みます。次に誰が登場するか予測してからページをめくり、4-5 ページの絵について話し合い、Dad が Creepy-crawly を取り出すことができなくて Wilf が Mum を呼んだ

ことが分かってから英文を読みます。“Get it out,”は意味を表すジェスチャーをつけて言うようにします。6-7 ページも同様にします。Ugh!は「ウギャー」という感じで叫び声をあげます。Wilf called Mum.と読んだら、みんなで“Mum!”と大きい声で呼んでみましょう。同様にして 15 ページまで読み進み、16 ページで Kipper がどうするか予測してからページをめくります。

- 3) この絵本は couldn't, said, called, “Get it out.”を練習するように作られています。15 ページまで、見開きごとに人名が入れ替わるだけで、同じパターンが続きます。必ず絵を見て誰が「できない」と言い、誰が誰を呼んでいるか予測・理解してから英文を読むようにすると、子どもも一緒に声を出して読むようになります。
- 4) 7 人の子どもに Kipper たちの役を割り当てて act out します。100 円ショップのいたずらコーナーでゴム製のクモやサソリなど気持ちの悪い生き物を 2-3 個買い、重ねて糸で結ぶと、なんだか訳のわからない Creepy-crawly を作ることができます。空き箱または、テーブルを bathtubに見立てて Wilma 役の子どもが creepy crawly をお風呂に入れるところから始めます。

Level 2 Patterned Stories

Monkey Tricks いたずら

ウィルフとウィルマのパパが子ども達を動物園へ連れて行ってくれました。みんなはまずキリンを見ました。ウィルフとウィルマのパパは、キリンの背が高い理由を説明してくれました。「キリンたちは木のでっぺんのみずみずしい葉っぱを食べるためにあんなふうに進化していったんだよ」。次にみんなはアシカを見ました。ちょうど餌付けの時間でした。陸の上では体をくねらせてよちよちと歩くアシカ達も、ひとたび水に飛び込むと機敏にそして優雅に泳ぎまわります。アシカ達ははらぺこだったので、飼育係が投げた魚をととも上手にキャッチしました。「アシカたちは海に住んでいるけれど魚じゃないんだよ。どんな生き物の仲間か知ってる？」とウィルフとウィルマのパパが子どもたちに尋ねました。「哺乳類よ」とウィルマが答えました。次にみんなはワニを見ました。ワニたちは眠っていたので、キッパーには最初、それが本物の生きたワニだと思えませんでした。「プラスチックでできたおもちゃじゃないよね？」とキッパー。「本物だよ。陸地では、君らより速く走れるんだよ。だから追いかけられないように気をつけなくちゃね」とパパ。ウィルフが「僕、走るのは得意だよ。」と言いました。「ワニよ、ワニよ、ワニさんよ、さあ来い。勝負してやる」。その次に、みんなはオウムを見ました。オウムたちは、鳴き声をあげたり羽根をばたばたさせたりして、騒々しくしていました。ビフはオウムの小屋には入りたくないと思いました。次にゾウを見に行くと、ちょうど牙を磨いてもらっているところでした。あまりの大きさに子ども達はびっくりしました。次にみんなは、すぐ近くのサルを見に行きました。サルたちの動きはなんとも愉快です。ウィルマのパパは笑いながら、「このサルたちとメイ先生のクラスのみんなは大してかわらないだろうなあ」と冗談を言いました。一匹のサルがチップに向かって妙な表情を作ったので、ビフがみんなに「あれ見て！ 誰かさんを思い出さない？」と言いました。「キッパーだ！ でもキッパー、どこに行っちゃったんだろう。さっきから見てないけど」とチップ。ウィルマのパパも同じくキッパーの姿をさっきから見ていなかったことに気がついて、迷子になってしまったのではないかと心配しました。子ども達もキッパーがととも心配になり、みんなでキッパーを探しました。「でも迷子になるわけないよね。だってゾウを見ていた時には、キッパーも僕らと一緒にいたんだよ」とウィルマが言いました。「もし自分から姿を隠したんだとしたら、キッパーはいたずら小僧(*a little monkey)だな」とパパ。そこへサルのお面をかぶったキッパーが現れました。「いたずら小僧(a little monkey)って言う

た通りだったよ。カメラがあつたらこのおサルさんのいたずらが撮れたのになあ」
とパパは言いました。

*注…monkey には「いたずら小僧」の意味もある

Monkey Tricks いたずら

- PG 1 The children went to the zoo.
子ども達は動物園に行った。
- PG 2-3 They looked at the giraffes.
The giraffes were tall.
彼らはキリンを見た。
キリンは背が高かった。
- PG 4-5 They looked at the seals.
The seals were hungry.
彼らはアザラシを見た。
アザラシはお腹がすいていた。
- PG 6-7 They looked at the crocodiles.
The crocodiles were asleep.
彼らはワニを見た。
ワニは寝ていた。
- PG 8-9 They looked at the parrots.
The parrots were noisy.
彼らはオウムを見た。
オウムは騒々しかった。
- PG 10-11 They looked at the elephants.
The elephants were big.
彼らは象を見た。
象は大きかった。
- PG 12-13 They looked at the monkeys.
The monkeys were funny.
彼らは猿を見た。
猿は面白かった。
- PG 14-15 They looked for Kipper.
彼らはキッパーを探した。
- PG 16 Kipper looked like a monkey.
キッパーは猿のように見えた。

Hey Presto! そ〜れ!

ウィルマとウィルフは手品ショーへ連れて行ってもらいました。二人とも、夜のお買い物へ出かけるものとはばかり思っていたので、突然パパから「お買い物じゃなくて、実はこれからショーへ行くんだよ」と聞かされた時には二人とも大喜び。ウィルマはどんなショーへ行くのかパパに聞こうとしましたが、パパは「行ってのお楽しみ！」と誇らしげに言うのみです。「ホールで一番いい席を取ったんだよ。特にこのショーにはとっておきの席さ」

席はパパの言った通りのよい席でした。一番前の列でステージはすぐ間近です。シーナという名のマジシャンがショーをしました。シーナは最初に、ハンカチをつかった手品を披露しました。色とりどりのハンカチをいくつも片手に押しこみ、「そ〜れ(Hey presto)！」と掛け声をかけてから引っ張り出すと、ハンカチは互いに結ばれあってひとつつながりになっていました。これにはパパも感心しました。

「さてみなさん、お次のトリックには殿方の協力が必要です」そう言うとシーナがパパの方を見ました。シーナは舞台から降りてきて、パパの明るい色をした派手なネクタイをとりました。「これはどなたかからのプレゼントかしら？」パパがうなずくと、シーナが「だったら、きっとその方はあなたのことがあまり好きじゃなかったのね」と言って、ネクタイをバッグに入れました。会場のみんなが笑いました。

「さあみなさん、お次はご婦人に協力していただくなくっちゃ」そう言うと、シーナはママの方を見ました。今度はママのイヤリングを取ると、それをバッグに入れました。シーナはパパに気付かれないように、こっそり腕時計も取ってしまっていました。「気がついてましたか？」とシーナにがパパの腕時計を見せると、パパは「あれ！僕の腕時計だ」と驚いて言いました。パパが腕時計をしばらく貸してあげること同意したので、シーナはこの腕時計もバッグに入れました。

シーナはパパを舞台の上に連れて行き、バッグをパパの頭の上ののせ、さらにその上にトップハットをかぶせました。「さて、ネクタイと腕時計と指輪は無事でしょうか？」とシーナ。パパは内心、(僕の頭の上ののっかってるんだから無事に決まってるのに)と思いました。

次にシーナは、「もう一人助けが必要です。お嬢ちゃん、手伝ってくれますか？」と言って、ウィルマを指名し、舞台の上に呼び寄せました。そして、大きな箱を持ち出しました。「これは私の魔法のキャビネットです」そして、扉を開いて、箱の中にしかけがないことを観客達に見せてから、ウィルマを中に入れて扉を閉めました。シーナが箱の中のウィルマに「大丈夫？」と声をかけると、中から「はい」というぐもった声が返ってきました。

「さーて旦那様、あなたのネクタイと腕時計、それに奥様のイヤリングは一体どこにあるでしょうか？」とシーナがパパにたずねました。「簡単ですよ。僕の頭の

上のバッグの中でしょう」とパパ。「そう。私がバッグの中に品物を入れてあなたの頭の上にのせてトップハットをかぶせてから、誰も手を触れてないですよ？」とシーナ。「はい」とパパ。そこで、シーナは魔法の杖をとりだし、ウィルマの入った箱をコツコツと叩いて「そ〜れ(Hey presto)！」と声をかけました。

シーナが魔法のキャビネットの扉を開けると、中からウィルマが出てきました。パパは目を疑いました。なんと、ウィルマはパパのネクタイと腕時計、それにママのイヤリングをつけていたのです！観客たちは拍手喝采し「なんてすごいトリックなんだろう」、「どうやったのかしら！」と口々に言いました。そして、ウィルマが口にした言葉はもちろん……、「そ〜れ(Hey presto)！」

Hey Presto ! そ〜れ !

- PG 1 The children went to a show.
Mum and Dad took them.
子ども達はショーに行った。
ママとパパが連れて行ってくれた。
- PG 2-3 A conjuror was in the show.
She was called Sheena.
魔術師はショーに出演していた。
彼女はシーナと呼ばれていた。
- PG 4-5 She took Dad's tie.
She put it in a bag.
彼女はパパのネクタイを持って行った。
彼女はそれをバッグに入れた。

- PG 6-7 She took Mum's ear-ring.
She put it in the bag.
彼女はママのイヤリングを取った。
彼女はそれをバッグに入れた。
- PG 8-9 She took Dad's watch.
She put it in the bag.
彼女はパパの腕時計を取った。
彼女はそれをバッグに入れた。
- PG 10-11 She took Dad on to the stage.
She put the bag on Dad's head.
彼女はパパをステージの上に連れて行った。
彼女はパパの頭にバッグをのせた。
- PG 12-13 Sheena took a big box
She put Wilma inside.
シーナは大きな箱を持ち出した。
ウィルマをその中に入れた。
- PG 14-15 Sheena took her wand.
"Hey presto!" she said.
シーナは彼女の魔法の杖を取り出した。
「そ〜れ！」と言った。
- PG 16 "Hey presto!" said Wilma.
「そ〜れ！」とウィルマは言った。

It's the Weather

それはお天気のせい

風がとても強い日のことでした「ああ、いやだ。今日みたいな日は」とメイ先生は思いました。メイ先生のいやな予感のは的中しました。子ども達は騒々しく喋ったり笑ったりし、中には叫んでいる子までいます。メイ先生は子ども達に注意しました。「シーツ。やめてちょうだい」メイ先生は子ども達を自分に注目させ、静かにすればみんなの大好きな絵本を読んであげるといったので、子ども達は少しの間だけ静かになりました。

休憩時間になってメイ先生はコーヒーで一息つくことができましたが、その間外で遊んでいた子ども達は、戻ってきたときにはまた元通り。「やれやれ、朝の延長にならなきゃいいのに」とメイ先生は思いましたが、案の定子ども達は興奮。さわがしくふざけてばかりで、おまけにものを散らかしたり、ぐちゃぐちゃにしたりしました。メイ先生がアクティビティ・コーナーへ様子を見に行ってみると、画用紙や絵の具が床にぶちまけられていて、小さな男の子の手は緑色の糊でベタベタでした。普段はめったに怒らないメイ先生もこの日ばかりはかんかんです。「このごちゃごちゃを今すぐきれいにしてちょうだい。絵の具も画用紙も糊もクレヨンも全部片付けて」いつになくきつい口調で言いました。

散々な朝が終わり、ランチタイムになりました。でも、子ども達はまたもや浮き足だっています。メイ先生は窓の外を見やりました。風が窓に吹き付け、葉っぱや紙くずが校庭を舞っていました。メイ先生は風が弱まることを願いました。「やれやれ」とメイ先生が言いました。子ども達がお行儀よくできない理由を、メイ先生は知っていました。「お天気のせいね」とメイ先生は思いました。「この風が収まってくれない限り、午後あまり期待できないわ」

しかし、メイ先生の悪い予感はまだしても的中してしまいました。午後、メイ先生は子ども達に静かに取り組める課題を与えましたが、お友達同士で助け合っとなければならない事や、一緒に使わなければならない物があり、そのうちいさかいが始まってしまったのです。ビフとアニーナという女の子がまず言い争いをはじめました。チップやウィルフや他の子ども達もそれに参加したので、メイ先生はそちらも止めなければなりません。「叫ぶことないでしょう。みんなお行儀よくして。いらいらしないのよ」とメイ先生は注意しました。

ウィルフとレイチェルという名前の女の子とのけんかはひどいものでした。二人が泣いているよ、とチップが報告したので、メイ先生はすぐにかかけつけ、二人を仲直りさせました。ふたりともにきちんと相手にあやまらせ、それから握手をさせました。周りのみんなもそれで少し元気をとりもどしましたが、子ども達の心が落ち着かないわけをメイ先生は分かりきっていました。

突然、窓にたたきつけていた風が止んで、雨になりました。メイ先生はみんなに

声をかけて窓の外を見せました。「おやおや。みんな聞いてね。今日はみんな、騒いだり散らかしたりイライラしたり、あまり良い一日とは言えなかったわね。その理由はね、お天気のせいなの。ほら、外をみてごらんなさい。お天気はどうなってる？」

「雨が降ってるよ」とウィルフが言いました。

「それから？」とメイ先生。

「風が止んだわ」とビフ。

「その通り。やっと風が止んだのだから、みんなも落ち着いて腰を下ろして、静かに残りの時間を過ごせるわよね」とメイ先生。

少しすると雨があがって、太陽が輝きました。メイ先生はホッとしました。そして、子ども達のやりたいようにやらせてあげました。すると今度は、騒いだり散らかしたりけんかしたりせず、いい子で作業をしてくれるようになりました。一日の最後の時間になって、やっとメイ先生は先生でいることをもう一度楽しめるようになりました。

一日が終わり、下校の時間になりました。子ども達が父母の元へ駆け出していく頃には、太陽が輝いていました。「なんていう一日だったのかしら」とメイ先生は思いました。一方子ども達は家に帰って、お母さんやお父さんに「今日は学校は楽しかったかい？」と聞かれたとき、「うん。最高だったよ！」と答えたのです。信じられますか？

It's the Weather **それはお天気のせい**

- | | |
|--------|--|
| PG 1 | The children were noisy.
子ども達は騒がしかった。 |
| PG 2-3 | The children were silly.
子ども達はどうしようもなかった。 |

- PG 4-5 The children were messy.
The children were untidy.
子ども達は散らかしっぱなしだった。
子ども達はだらしがなかった。
- PG 6-7 “Oh dear!” said Mrs May.
“It’s the weather.”
「あらまあ！」とメイ先生が言った。
「お天気のせいだわ」。
- PG 8-9 The children were cross.
The children were grumpy.
子ども達はいらいらしていた。
子ども達は不機嫌だった。
- PG 10-11 The children were unhappy.
子ども達は落ち込んでいた。
- PG 12-13 “Oh dear!” said Mrs May.
“It’s the weather.”
「あらまあ」とメイ先生が言った。
「お天気のせいだわ」。
- PG 14-15 The sun was shining.
The children were good.
太陽が輝いていた。
子ども達は良い子だった。
- PG 16 “What a day!” said Mrs May.
「何という一日だったこと」とメイ先生は言った。

ある休日のことでした。突然、男の人が二人の子どもを連れてやってきたので、ビフとチップとキッパーはびっくりしました。二人の子の名前はピーターとジェーンといいました。キッパーよりはちょっと年上、ビフとチップよりはちょっと年下の子たちです。男の人はママに「ピーターとジェーンがお世話になります。会議が終わり次第、5時過ぎには迎えに来ますから」と言いました。

男の人が去って行った後、ママはビフとチップの二人に、彼らとお友だちになって一緒にゲームでもしてあげるよう提案しました。そこでビフとチップは二人をリビングルームに連れて行き、「ゲームでもする？」と聞きましたが、二人は部屋の中で追いかけて始めてしまいました。二人は家具によじ登ったり、ソファの上に飛び降りたりしました。「これはいいゲームだね」とピーター。「このテーブルはジャンプするのにぴったりだし、ソファは飛び降りるのにちょうどいいや」

ビフとチップは、みんなで二階へ上がって自分たちの部屋で本でも読もうと提案しました。しかし、ピーターとジェーンは二階へ上がった途端ママとパパのベッドルームへ駆け込み、カーテンをよじ登ったり、ベッドの上に飛び降りたりしました。「私たち、あなたたちのお家が好きよ。最高の遊び場になるもん」とジェーン。「ワイイ。このベッド、最高のスプリングボードになるよ」とピーター。ビフもチップもキッパーも、これにはびっくり。こんな子たちは見たことがありません。ビフがこっそり言いました。「この子たち、今までに一度も家具を見たことないのかしら？」

ビフたちは二人がやんちゃをしても物を壊したりしないよう、二人をお庭に連れていくことにしました。ところがお庭に出ると、二人はさらにわんぱくになってしまいました。二人は木登りをし、ママが植えたお花の上に飛び降りました。「なんとかしなきゃ」とビフが言いました。

チップがサッカーボールをもってきたので、少しの間、みんなでそのボールで遊びましたが、すぐにジェーンが排水用のパイプによじ登りはじめてしまいました。ピーターは、方向なんておかまいなしに、ボールを力いっぱいキックしたりヘディングしたりしています。ママはピーターとジェーンがこんなにもわんぱくでいうことを聞かない子たちだとは知らなかったので、リビングルームの窓に向かってピーターがボールをヘディングしてるのを見たときには「あら、まあ！」と声をあげました。そのとき、ビフがいいことを思いつきました。

ビフのアイデアとは、立派な遊び場を備えた公園に、二人を連れていくことでした。公園でなら、二人も好きなだけ走り回れます。ママがピクニックに行こうと提案し、みんなで公園へやってくると、二人もこの公園が気に入りました。二人ははしごを登ったり、丸太から飛び降りたりし、ちっとも疲れた様子を見せません。ママは「見てるだけでも疲れちゃうわ」と言いました。

ピーターとジェーンは午前中、遊具で遊び続けました。ネットをよじ登り、壁から飛び降りました。もちろんビフやチップも加わりましたが、二人のエネルギーにはついていけませんでした。

食事の時間になりました。でも、ピーターもジェーンも、遊びを中断して、きちんと腰掛けゆっくり食事をしようとする気はないみたいです。二人は食事の途中でかけだし、サッカーボールで遊び始めてしまいました。「お行儀が悪いわ。せめて座って、私たちと一緒に何か食べたってよさそうなのに」とビフが言いました。ママは、ピーターとジェーンを敷物の上におとなしく座らせようとするのはやめました。そして結局、みんながそれぞれに満足したのです。ママは二人を見て言いました。「なんていい子たちなのかしら！」

しかしそれも、ピクニックをしているママたちの所へピーターがサッカーボールをヘディングしてくるまでの話でした。「もうおしまい」とママは言いました。「まっすぐ家へ帰るわよ」ボールはオレンジジュースのビンをなぎ倒し、ママのサンドイッチは草むらの上に飛び散ってしまっていました。でもピーターは謝りませんでした。「確かに、これ以上二人が何かやらかす前に、連れて帰った方がよさそうだな」とチップは思いました。5時になった時、ビフとチップは大喜びしました。朝二人を連れてきたおじさんがやってきて、二人の子ども達を連れて帰っていったからです。ビフたち一家に、ようやく安らぎと静けさが戻ってきました。

Naughty Children

いたずらな子ども達

- | | |
|--------|---|
| PG 1 | Two children came.
二人の子どもがやって来た。 |
| PG 2-3 | They climbed on the furniture.
They jumped on the sofa.
彼らは家具に登った。
彼らはソファの上に跳び乗った。 |

- PG 4-5 They climbed up the curtains.
They jumped on the bed.
彼らはカーテンをつたって登った。
ベッドで跳びはねた。
- PG 6-7 They climbed up the tree.
They jumped on the flowers.
彼らは木に登った。
彼らは花の上で跳びはねた。
- PG 8-9 "Oh no!" said Mum.
Biff had an idea.
「なんてこと！」とママが言った。
ビフにある考えが浮かんだ。
- PG 10-11 They climbed up the ladder.
They jumped off the log.
彼らははしごに登った。
彼らは丸太から跳びおりた。
- PG 12-13 They climbed on the net.
They jumped off the wall.
彼らはネットに登った。
彼らは壁から跳びおりた。
- PG 14-15 Everyone was happy.
"What good children!" said Mum.
みんなは幸せだった。
「なんて良い子たちでしょう！」とママは言った。
- PG 16 The children went home.
その子ども達は家に帰って行った。

A Sinking Feeling 沈む感覚

ママが新しくできたプールへ連れて行ってくれました。ウィルフやウィルマも一緒です。キッパーは他の子ども達よりも少し遅れて水に入りました。ママが腕にはめる浮き輪を膨らませてくれるのを待っていたからです。ビフとチップ、そしてウィルフとウィルマはプールの浅い方の端でキッパーを待っていました。「おいでよキッパー!」とウィルマが声をかけました。「私のところまで泳げるかやっpegらん」。でも、キッパーは水に顔をつけるのがいやだったので、泳いでいるふりをしながら、あしでぴよこぴよこ跳ねてやってきました。片足が必ず地面についているようにして、沈んでしまわないように気をつけながらキッパーは進んでいきました。

プールでは、一日中、いろいろなセッションが行われていました。大人向けのセッションや、ママと幼児のためのセッションもありましたが、今はお楽しみのセッションの時間です。この時間には大きな浮き具が浮かべられ、それで遊ぶことができます。浮き具のひとつは、大きな太ったアヒルの形をしていました。背中にはネットがついていましたが、すぐにひっくり返ってしまうのでよじ登るのは大変です。ビフに「行け、ウィルマ、乗っちゃえ」と励まされて、ウィルマがアヒルによじ登りました。アヒルはぐらぐらしましたがひっくり返りはしませんでした。「行け、ウィルフ。乗って」ウィルマがやっきになって声をかけ、ウィルフが注意深くよじ登りました。次はチップです。「行け、チップ。乗っかれ」とウィルフが叫び、チップも注意深くよじ登りました。「お————と！」とチップは言いました。チップにはアヒルが不安定で、いつひっくり返ってもおかしくないように感じられました。キッパーは手を振り、笑いました。キッパーは泳ぐことより、こっちの方がずっと楽しいと思いました。次はビフです。ビフがネットをつかむとアヒルは大きく傾きましたが、なんとかひっくり返らずにすみました。ビフはもう一度挑戦し、男の子二人はビフの腕をつかんであげました。「乗って」とチップ、そしてビフも今度は上手に乗れました。アヒルはぐらぐら揺れましたが、ひっくり返りませんでした。ママが楽しげな様子を見ようと子ども達の方へ泳いできました。

さてさて、お次はキッパーの番です。他のみんなは、アヒルによじ登るのは、キッパーが一番大変だと知っていました。体が一番小さいからです。そこで、キッパーがアヒルの方へ歩み寄ると、みんなは手を貸そうとキッパーのほうへアヒルを傾けました。「乗って」とビフ。「お————と」とみんな。キッパーは両腕を伸ばして、力いっぱいジャンプしましたが、アヒルには乗ることができませんでした。どんなにやってもだめでした。

そこで、子ども達は、ウィルマのアイディアで、みんなでアヒルの横側に乗って体をもたせかけ、アヒルを安定させておいてからキッパーを引っ張り上げようと思いました。そして、「乗って」とキッパーに呼びかけました。でも、水が深すぎて、キッ

パーは体を伸ばすたびに沈んでしまい、アヒルに乗ることができませんでした。

そうこうするうち、突然、ウィルマがキツパーの手をつかむことができました。みんな「乗って」と言いながらキツパーを水の中から引っ張り上げ、ようやくキツパーはアヒルに乗ることができました。ママも「やったー！」と言いました。

そのときには既にアヒルは右に左に大きく揺れていました。「うわー！」とみんなは叫びました。突然アヒルはひっくり返り、みんなは水の中に投げ出されてしまいました。大きな大きな水しぶきが上がって、プールにいた人全員に降りかかりましたが、みんながひっくり返った場面がとてもおかしかったので、誰も腹をたてたりはしませんでした。アヒルの下から真っ先に這い出てきたキツパーは満面の笑顔でママに尋ねました。「もう一回やってもいい？」

A Sinking Feeling

沈む感覚

- | | |
|--------|---|
| PG 1 | The children were in the pool.
子ども達はプールに入っていた。 |
| PG 2-3 | Wilma climbed on the duck.
ウィルマはアヒルに登った。 |
| PG 4-5 | “Get on,” said Wilma.
Wilf climbed on.
「乗って」とウィルマが言った。
ウィルフはよじ登った。 |
| PG 6-7 | “Get on,” said Wilf.
Chip climbed on.
「乗って」とウィルフが言った
チップはよじ登った。 |
| PG 8-9 | “Get on,” said Chip.
Biff climbed on.
「乗って」とチップが言った。
ビフはよじ登った。 |

- PG 10-11 "Get on," said Biff.
Kipper couldn't get on.
「乗って」とビフが言った。
キッパーは乗ることができなかった。
- PG 12-13 "Get on," said everyone.
Kipper couldn't get on.
「乗って」とみんなが言った。
キッパーは乗ることができなかった。
- PG 14-15 "Get on," said everyone.
Kipper climbed on.
「乗って」とみんなが言った。
キッパーはよじ登った。
- PG 16 Oh no!
「あーなんてこと！」

Creepy – crawly ! 這う虫

ウィルマは creepy-crawly (這い回る虫)を持っています。ジョークショップで買ってきたにせものですが、とても不気味で、巨大な昆虫のような外見をしています。体はぶよぶよのプラスチックでできていて、ひやりと気味の悪い触り心地がします。ウィルマは「うわー、不気味！」と気味悪がりつつも、ウィルマと同じくらい creepy-crawly を気に入りました。そしてそれを使っていたずらを仕掛けようと、お風呂の中に creepy-crawly を入れました。

それからウィルマはパパを呼びました。いかにも怯えきった声で「パパ、パパ！大急ぎで来て。すぐ来てちょうだい。大変よ。何か恐ろしいものがここにいるの」と言いました。階下で新聞を読んでいたパパは階段を二段飛びにして、大急ぎでかけつけ、尋ねました。「一体どうしたんだい？」ウィルマは creepy-crawly を指差して言いました。「見て。とんでもないものがお風呂の中にいるのよ」。「取り出してよ」とウィルフが言いました。パパはすぐに creepy-crawly がプラスチック製のおもちゃだと気付きましたが、ジョークを楽しんで、このおふざけに参加することにしました。パパは顔に両手をあてて、震え上がるふりをしました。「ああ！僕にはできないよ」

ちょうどその時、ウィルフがママを呼びました。ママが下の階からかけつくと、ちょうど、パパが creepy-crawly に怯える芝居を熱演しているところでした。

「見て、creepy-crawly がお風呂の中にいるよ」とウィルフがママに言いました。ママは子ども達がいたずらをしかけているとは思わなかったの、creepy-crawly を見てずいぶんショックを受けました。「取りだしてよ」とウィルフが言いました。もちろん、ママだってすぐにそれがプラスチック製だと気が付きました。でも、ママもジョークを楽しんで、このおふざけに参加することにしました。顔に両手をあてて、震え上がるふりをしました。「ああ！私にはできないわ」

みんなでひとしきり笑いあった後、ウィルフとウィルマは、あまりにもこのジョークが楽しかったので、チップが遊びに来たときにもやってみることにしました。ウィルマはチップを呼びました。チップがお風呂場へ行ってみると、ウィルフとウィルマだけでなく、ママとパパもいたので驚きました。そして、creepy-crawly を見た時には本当にショックを受けました。「ぞっとしちゃうわ。どうやってそこへ入ったのかわからないのよ」とママ。ウィルフが「取り出してよ」と言いました。もちろん、チップだって、それがプラスチック製だと気が付きました。でもジョークを楽しんで、両手を上にあげて怖がるふりをしました。「ああ！僕できないよ」

ちょうどその時、ウィルフがビフを呼びました。チップはビフに「恐ろしいもんだよ。よその惑星からやってきたエーリアンの虫がお風呂の中にいるんだよ」と言いました。「とってちょうだい」とウィルマ。ビフもすぐそれがプラスチック製だと気

付きましたが、ジョークを楽しんで、心底怯えるふりをしました。そして、「ああ！私
できない。こんなばけものみたいな虫、これまでの人生で見たことないもん」と言
いました。

ジョークがとてもうまい具合にいったので、みんなもう一度やってみたくなりまし
た。そこで、チップが提案しました。「キッパーにしよう。キッパーはいつもみんなに
ちょっとしたトリックをしかけているもん」「でも、本当にびっくりしちゃうかもしれな
いわ」とウィルマ。「creepy-crawlyの方がキッパーにびっくりするんじゃないかし
ら」とビフ。そこで、みんなはキッパーを呼び、「見て、僕らにはとてもできそうにな
いんだ。キッパー、やってくれる？取り出してよ」とウィルフから頼みました。

「簡単だい！」とキッパーは言いました。キッパーはまったく平気な様子でしゃが
んで creepy-crawly をつまみ上げ、みんなの方に差し出しました。みんなは「あ
あ！」と言って、できる限り怖がるふりをしました。それから、みんなで大笑いしま
した。キッパーは、みんなとは違う反応をしたけれど、このジョークがとても気に
入りました。あんまり楽しかったので、家に帰ってからママとパパにも同じことを
するために、creepy-crawly を貸してもらえないかと聞きました。

Creepy – crawly! 這う虫

- PG 1 Wilma had a creepy-crawly.
 She put it in the bath.
 ウィルマは這う虫を持っていた。
 彼女はそれをお風呂に入れた。
- PG 2-3 Wilma called Dad.
 “Get it out,” said Wilf.
 ウィルマがパパを呼んだ。
 「それを取り出して」とウィルフが言った。

- PG 4-5 "Ugh! I couldn't," said Dad.
Wilf called Mum.
「うわっ！ パパには何もできないかも」とパパは言った。
ウィルフがママを呼んだ。
- PG 6-7 "Get it out," said Wilf.
"Ugh! I couldn't," said Mum.
「それを取り出して」とウィルフが言った。
「うわっ！ ママには何もできないかも」とママは言った。
- PG 8-9 Wilma called Chip.
"Get it out," said Wilf.
ウィルマはチップに声をかけた。
「それを取り出して」とウィルフが言った。
- PG 10-11 "Ugh! I couldn't," said Chip.
Wilf called Biff.
「うわっ！ 僕には何もできないかも」とチップは言った。
ウィルフがビフに声をかけた。
- PG 12-13 "Get it out," said Wilma.
"Ugh! I couldn't," said Biff.
「それを取り出して」とウィルマが言った。
「うわっ！ 私には何もできないかも」とビフは言った。
- PG 14-15 Everyone called Kipper.
"Get it out," said Wilf.
みんなはキッパーを呼んだ。
「それを取り出して」とウィルフが言った。
- PG 16 "Easy!" said Kipper.
「簡単だよ！」とキッパーは言った。